

## 2019年度 学校経営計画

### 1 学校教育目標

豊かな心と主体的に生きる力を養い、自立し進んで社会参加できる人間を育成する。

### 2 学校の特徴

本校は、肢体不自由養護学校として県内で最も早く設置された学校である。現在、小学部、中学部、高等部の肢体不自由の児童生徒と高等部には軽度知的障害のある生徒も在籍し共に学んでいる。通学して教育を受けることが困難な児童生徒のために、家庭に出向いて訪問教育を行っている。肢体不自由の障害の実態に合わせた校内環境の充実、給食の食事形態の工夫、医療的ケア等を実施しており、通学支援としてスクールバスを運行し寄宿舎が設置されている。

児童生徒一人一人の障害の状況や教育的ニーズに応じて「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成・活用し、きめ細かな指導・支援に努めるとともに、生きる力を育み、学校生活において学んだ知識や技能を家庭生活においても汎化することができるよう学習内容を精選し、授業実践に取り組んでいる。また、各種行事や校外学習を通して社会経験の拡充を図ったり、関係機関と連携したりしながら、児童生徒一人一人の卒業後の豊かな生活を目指した職業教育や進路支援の充実に努めている。交流及び共同学習（居住地校交流、学校間交流）を行い、児童生徒の人間関係づくりと地域生活支援を積極的に進めている。

### 3 学校の現状と課題

#### (1) 現 状

- ・新学習指導要領に掲げられている「何ができるようになるか」を明確にしながら、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を組み立てていくことが求められている。教科等横断的な視点に立った学習内容の見直し、また、それに基づいた計画的な授業実践を行うことによる学習指導の充実が必要である。
- ・児童生徒は障害のために社会体験やスポーツ活動等の経験が豊かとは言えない。校内では、ボッチャ大会やスポーツ部等の活動を行っているが、余暇活動としての広がりには難しい。生涯学習の視点からも、学習活動としてスポーツに取り組み、余暇活動の充実につなげる必要がある。
- ・小学部から高等部までの保護者が抱えている悩みや、必要としている情報は多岐に渡っている。保護者との意見・情報交換の場は限られているため、保護者のニーズを十分把握し、進路や健康関連等について、情報提供や意見・情報交換の方法を工夫して、より連携を図っていくことが必要である。

#### (2) 課 題

- ・教育的ニーズに基づく学習指導の充実
- ・ボッチャの啓発・普及により余暇活動を楽しむ力を育てる学習活動の充実
- ・保護者のニーズに合わせた懇談会等による保護者との連携

4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画	
1	学習活動	教育課程編成	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新学習指導要領に基づく適切な教育課程の編成を行う。</li> <li>○個別の指導計画を活用した指導の充実を図る。</li> </ul> <p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新学習指導要領における改正の概要や配慮事項等を踏まえた年間指導計画の作成を行う。特に、移行措置概要の確認や各教科等の目標や内容について研修を行い、教科等横断的な年間指導計画の作成に生かす。</li> <li>○合理的配慮の観点から踏まえた学習環境作りを行い、児童生徒の実態に則した指導目標・指導方法の検討、教師間の連携による適正な評価に基づく指導の充実、授業改善を行う。</li> </ul>
		教科指導(小学部)	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的な生活能力を高めるとともに、友達や教師との関わりを広げ、生き生きと活動できる児童を育てる。</li> </ul> <p>計画</p> <p><b>重点1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○<u>児童の障害や健康状態、教育的ニーズを的確に把握し、学習形態や指導・支援の在り方を工夫するとともに、教科等横断的な視点をもって学習内容の充実を図る。</u></li> <li>○主体的に学ぶ意欲を育て、生活力を高めるために、学習に対する興味・関心や基礎・基本的な内容を重視し、個別の指導計画を生かした授業づくりや個に応じた支援の充実を図る。</li> <li>○様々な体験活動の充実を図り、周囲の人やものに積極的に関わっていく力や豊かな感情を育てる。</li> </ul>
	教科指導(中学部)	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人の生活能力を高めるとともに、人との関わりや生活経験の拡大を図り、主体的に学習や活動に取り組む生徒を育てる。</li> </ul> <p>計画</p> <p><b>重点1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の障害の状況や教育的ニーズを的確に把握して、<u>系統的に学習内容を精選するとともに、教科等横断的な視点をもってねらいを具体化する。</u></li> <li>○必要な情報を学部全体で共有し、実態に応じて学習方法や学習環境を工夫し、各授業において<u>個に応じた教材・教具の活用</u>に努める。</li> <li>○生徒同士で話し合ったり認め合ったりする対話的な活動をとおして学びが深まるよう、効果的な学習形態を工夫する。</li> </ul>	
	教科指導(高等部)	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自立と社会参加に向けて、人との関わりの中で社会生活能力を高めるとともに、意欲をもち主体的に物事に取り組む生徒を育てる。</li> </ul> <p>計画</p> <p><b>重点1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒一人一人の障害に基づく困難や特性を把握するとともに、現在及び卒業後に必要とされる資質・能力は何かを明確にする。</li> <li>○<u>教科等横断的な視点で学習内容や目標を精選するなどカリキュラム・マネジメントを行うとともに学習の過程を見直し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。</u></li> <li>○集団活動や人との関わりを通して自らの考えを広げたり、他者の意見を受け入れたりしながら社会性の伸長を図り、自ら外部に働き掛けようとする実践的な態度を育てる。</li> <li>○家庭の協力が得られるように工夫するとともに、地域や関係機関との連携づくりに努める。</li> </ul>	
	教科指導(訪問教育)	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人の能力や個性を大切にして、それぞれの年齢やニーズに合わせた支援を行い、健康の保持・増進に努めるとともに人との関わりを広げ、自ら取り組もうとする意欲を育てる。</li> </ul> <p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒の所属する学部との連携を深め、生活年齢に配慮した学習内容の精選と教材の工夫に努め、訪問教育の充実を図る。</li> <li>○家族と信頼関係を築き、より訪問教育についての理解と協力が得られるように努める。</li> </ul>	
	I C T 機器活用	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒の実態や障害の特性を踏まえた I C T 機器等を活用した指導を推進する。</li> </ul> <p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ I C T 機器等の活用に関する情報を共有し、各教員の授業に生かせるようにする。</li> </ul>	
2	学校生活	保健管理	<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒が健康、安全に学校生活を送れるよう実態に応じた健康管理や健康教育を推進する。</li> <li>○医療的ケア等を安全・安心に実施する。</li> </ul>

		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎日の健康管理や定期検診等により児童生徒の生活習慣や健康状態を把握し、必要な情報の提供や個々に応じた健康指導を行う。</li> <li>○医療的ケアの実施体制及び、医療機関との連携を含めた緊急体制の教職員への周知を図り、緊急対応訓練等を行う。</li> </ul>
	生徒指導	目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒指導上の問題に的確に対応することができる。</li> <li>○災害時における組織的対応力を高める。</li> </ul>	
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ネットトラブルやいじめ等、社会における生徒指導上の諸問題の実情を収集し、全教職員が共通理解を図り対応や指導を行う。</li> <li>○危機管理マニュアルなどで、全教職員が共通理解を図り、より実践的に避難訓練等を行う。</li> </ul>
3	進路支援	目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>○個に応じた進路指導ができるように、必要な情報を収集し、計画的に支援する。</li> </ul>	
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒や保護者の進路意識を高め、個に応じた進路選択ができるように、必要な福祉・進路情報を収集し、提供する。</li> <li>○関係機関と連携し、企業及び福祉事業所の開拓を積極的に行う。</li> <li>○保護者や関係機関と連携し、卒業後の社会生活を見据え、ネットワーク作りに努める。</li> </ul>
4	特別活動 <b>重点2</b>	目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒の主体的な活動を促し、活性化を図る。</li> <li>○<u>東京2020オリンピック・パラリンピックをきっかけに、障害者スポーツやレクリエーションへの関心を高め、余暇活動に自ら積極的に取り組む姿勢を養う。</u></li> </ul>	
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒の意見や考えを大切にし、児童生徒会執行部が企画する行事や各専門委員会の活動などを通して、全校児童生徒が協力して活動できるようにする。</li> <li>○<u>手軽にできる障害者スポーツやレクリエーションについて、学校行事や授業等で紹介し、体験する機会をもつ。</u></li> </ul>
	学校図書室	目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>○読書環境を整備する。</li> <li>○図書に親しむ機会を増やし、読書活動を推進する。</li> </ul>	
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○テーマを決めて図書を展示するなどして各学部の児童生徒が利用しやすいように図書室の環境を整備したり、ロビーやホールに別置図書を配置したりして、いつでも読書ができる環境を整備する。</li> <li>○読み聞かせや読書活動を推進し、図書に親しむ機会を設ける。</li> </ul>
5	その他 <b>重点2</b>	目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>○<u>自立と社会参加に向けて、ニーズに応じた生活支援を行うとともに、人との関わりを助け、生活力の向上や余暇活動の充実を図る。</u></li> <li>○生活の安全を守るための支援及び安全確保に努める。</li> </ul>	
	寄宿舎部 <b>重点2</b>	計画 <ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人の実態に応じた生活支援方法について、学部や家庭と共通理解を図り、きめ細かな支援を行うとともに、家庭や地域と連携して余暇体験の拡大を図る。</li> <li>○緊急時にスムーズに対応できるように体制を検討し、訓練の充実を図る。</li> </ul>	
	研修 <b>重点1</b>	目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>○<u>児童生徒の生きる力を育むために、教科等横断的な視点から学習内容を整理し、「何を学ぶか」を明らかにする。</u></li> </ul>	
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○カリキュラム・マネジメントについて研修する。</li> <li>○<u>学習内容を整理し、教科等横断的な学習内容表を作成する。</u></li> <li>○学習場面における実践事例を共有し、児童生徒の障害特性やニーズに応じた指導方法を探る。</li> </ul>
	教育支援	目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>○特別な支援を要する幼児児童生徒やその保護者及び関係者への教育相談・教育支援の充実を図る。</li> </ul>	
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育相談で適切な情報提供を行うために、就学や進学のおくみ、進路に関することなどの必要な情報を収集する。</li> <li>○障害に関する様々な相談に対応できるよう、研修会等への参加や事例検討を行い、専門性の向上に努める。</li> <li>○特別な支援を要する子供への適切な支援を促すため、特別支援教育に関する助言や情報提供を行う。必要に応じて関係機関や他の分掌と連携して対応する。</li> </ul>

	情報管理	目標	○情報管理体制を確立するとともに、教職員への周知に努め、情報モラルやセキュリティ意識の向上に努める。
		計画	○個人情報の取扱いについて共通理解を図ったり、情報モラルやセキュリティに関する研修会を実施したりする。
	P T A 活動  重点3	目標	○P T A活動への主体的な参加を促し、活性化を図る。
		計画	○ <u>P T A各委員会の担当教員と保護者との連絡・調整を密にし、活動内容の充実を図る。</u> ○H Pや紙面等を活用し、 <u>研修や行事についての情報提供を行い、啓発活動を行う。</u> ○ <u>保護者のニーズに応じた懇談会等を設定し、積極的に連携を図る。</u>

## 5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

2019年度 富山総合支援学校アクションプラン - 1 -			
重点項目	学習活動		
重点課題	教育的ニーズに基づく学習指導の充実		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領では、資質・能力を育むため「何ができるようになるか」を明確にしなが、「何を学ぶか」という学習内容と「どのように学ぶか」という学習の過程を組み立てていくことが重要であると挙げられている。そのために、教科等の学習内容を見直し、教育課程ごとに学習内容を構造化することで、全児童生徒が「何を学ぶか」を明確にする必要がある。</li> <li>・昨年度まで「どのように学ぶか」に焦点を当てた研修の取組からの課題を受け、今年度からは各学部、学年、教育課程ごとに教科等横断的な視点に立った学習内容を見直し、計画的に授業実践を行うことによる学習指導の充実が求められている。</li> <li>・児童生徒は、身体の動きの困難さから限られた生活経験、知識やスキルの汎化の難しさ、また、対人関係、コミュニケーションの難しさがある。幅広い学習場面で分かりやすく学ぶ手立てを講じ、生活の場面で活用できる力の育成が必要である。</li> <li>・児童生徒が主体的に取り組み、深い学びに導くための学習指導に向けて、児童生徒に合った教材作成等の工夫が必要である。</li> </ul>		
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>教科等横断的な学習内容表の作成 学部検討会の実施 5回以上</td> <td>主体的・対話的な学習の実践事例（教材・ 教具を含む） 全校で5事例以上</td> </tr> </table>	教科等横断的な学習内容表の作成 学部検討会の実施 5回以上	主体的・対話的な学習の実践事例（教材・ 教具を含む） 全校で5事例以上
教科等横断的な学習内容表の作成 学部検討会の実施 5回以上	主体的・対話的な学習の実践事例（教材・ 教具を含む） 全校で5事例以上		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部専門家によるカリキュラム・マネジメントについての研修会を行う。</li> <li>・児童生徒の教育的ニーズを把握する手立てとして、「児童生徒を理解するためのワークシート」を活用した的確な実態把握を行い、教科等横断的な学習内容表の作成に生かす。</li> <li>・各学部で児童生徒の実態に応じた教科等横断的な学習内容表を作成し、全教員で共有する。</li> <li>・授業実践として、主体的・対話的な学習の実践事例（教材・教具を含む）を教員間で共有することで、本校教職員の更なる専門性の向上を目指す。</li> </ul>		

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

2019年度 富山総合支援学校アクションプラン - 2 -			
重点項目	特別活動		
重点課題	ボッチャの啓発・普及により余暇を楽しむ力を育てる学習活動の充実		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年東京オリンピック、パラリンピックを来年に控え、障害者スポーツへの関心が高まりつつある。身近にできる障害者スポーツとして「ボッチャ」があり、本校でも昨年、一昨年と全校あげて大会を実施してきた。</li> <li>・身体の動きに困難さがあり、生活経験が乏しい児童生徒が多い中で、ボッチャは手軽にできる障害者スポーツとしてとても有効で、「ボッチャ甲子園」などの全国大会もある。</li> <li>・児童生徒が主体的に活動し、より身近なスポーツとしてボッチャが根付いていくためには、関わる者（指導する教職員や児童生徒）が試合の流れやルールを理解し、意図的に環境を設定する必要がある。</li> <li>・寄宿舎も含め、学校生活の中で、生活を豊かにし、「見るスポーツ」から「みんなが楽しみ、行うスポーツ」を数多く体験させ、生涯学習や余暇活動につなぐ取組が必要である。</li> </ul>		
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>全校ボッチャ大会に向けて、試合形式のボッチャへの参加（児童生徒）一人3回以上</td> <td>ボッチャ大会に関するアンケートの実施 よかったの意見・満足度 90%以上</td> </tr> </table>	全校ボッチャ大会に向けて、試合形式のボッチャへの参加（児童生徒）一人3回以上	ボッチャ大会に関するアンケートの実施 よかったの意見・満足度 90%以上
全校ボッチャ大会に向けて、試合形式のボッチャへの参加（児童生徒）一人3回以上	ボッチャ大会に関するアンケートの実施 よかったの意見・満足度 90%以上		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校集会等で身近にできる「ボッチャ」の競技について紹介し、そのルールや方法について周知できる機会を設定する。</li> <li>・2学期末の全校ボッチャ大会に向けて、各学部、寄宿舎でいつでも児童生徒が練習に取り組めるよう、コート整備、用具の貸し出し等を行う。</li> <li>・大会に向けて、各学部・寄宿舎でも試合形式でボッチャを実施してもらい、ボッチャのルールの理解、作戦のたて方など、ボッチャの楽しさを数多く経験するとともに、大会後にアンケートを実施し、その満足度を把握する。</li> </ul>		

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

2019年度 富山総合支援学校アクションプラン - 3 -

重点項目	その他	
重点課題	保護者のニーズに合わせた懇談会等による保護者との連携	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度実施した保護者アンケートでは、教員ともっと連携したい、意見や情報を交換したい、悩みや情報を共有するための機会が少ない等の意見が多くあった。</li> <li>・日々の登下校時の他に、保護者が学校を訪れる機会は限られており、保護者が担任以外の教員の話の聞いたり、学部の垣根を超えて先輩保護者の話を聞いたりする機会は少ない。</li> <li>・保護者の悩みや必要としている情報は、所属する学部や児童生徒の年齢によって異なる。そのため保護者のニーズを十分に把握し、それに応じて学校が情報を発信したり、保護者と直接意見交換をしたりしていく必要がある。</li> </ul>	
達成目標	懇談会等の回数 4回以上	懇談会等に関する保護者アンケートの実施 満足度 よかった以上80%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に、子供への日々の関わりや生活習慣の形成、健康の維持、卒業後の進路等についてアンケートを実施し、悩みや必要としている情報を把握する。</li> <li>・アンケートは、保護者が回答しやすいように、各項目ごとに選択肢を複数用意し、その中から懇談会等で取り上げてほしいものを選ぶことができるようにする。</li> <li>・保護者のニーズに応じた懇談会等を企画・設定し、保護者が必要としている情報を関係学部や分掌などから提供したり、保護者同士で意見や情報を交換したりできるようにする。</li> <li>・多くの保護者に懇談会に参加してもらうため、参加しやすい日を設定したり、他のPTA行事と同日に開催できるように配慮したりする。</li> <li>・懇談会後にアンケートを実施し、成果や課題を把握する。</li> </ul>	

( 評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった )